

## 最澄の幼少期の姿をかたどった像

日本仏教界で最も影響力の強い寺院のひとつである比叡山延暦寺を788年に開いた伝教大師最澄（767～822年）の少年のお姿。最澄は生まれたときに薬師如来像を手になしていたと伝えられているので、この像も薬師如来像を持っている。

比叡山麓の坂本に住む最澄の両親は子宝に恵まれなかった。そこで比叡山のすそ野の八王子山に草庵を結んで七日間籠り、「大山咋神」（おおやまくひのかみ）に祈りを捧げた。四日目に夢のお告げをいただいて授かったのが最澄。

幼少の頃の名を「広野」といった。十二歳で出家し、十五歳で得度して「最澄」の法名を授かり勉学修行に励んだ。

794年に比叡山延暦寺が桓武天皇によって鎮護国家の寺院とされると、最澄は日吉大社を延暦寺の守護神とした。

山麓の坂本には、最澄の父、三津首百枝（みつのおびとももえ）の邸宅の跡地で、最澄誕生の際に産湯のための水を汲んだいわれのある井戸がある生源寺（しょうげんじ）や、最澄が亡父の供養の為に、戸津の浜に住む人々に向けて『法華経』の教えを説く戸津説法（とづせっぽう）を行うために建てられた東南寺（とうなんじ）などが残る。

この像は比叡山開創1150年を記念して、1937年につくられた。